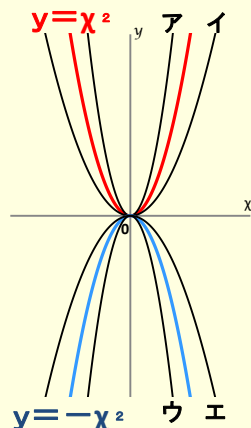


やましろ授業スタンダード 活用シリーズ Vol.1 導入編
 どの子ども学びに向かわせる「導入」チェックリスト

| | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 出合いは、本時の「めあて」に結びついていますか。 | <input type="checkbox"/> |
| 「めあて」は、子どもの言葉で具体的に設定できましたか。 | <input type="checkbox"/> |
| 「めあて」を、どの子にもつかませることができましたか。 | <input type="checkbox"/> |
| 「めあて」は、まとめにつながっていますか。 | <input type="checkbox"/> |
| 導入は、精選・選択してコンパクトなものでしたか。 | <input type="checkbox"/> |
| 導入で、どの子も「学びの見通し」をもちましたか。 | <input type="checkbox"/> |

「出合い」から「めあて」への具体例 【中学校 数学】



前の時間に勉強した $y = x^2$ のグラフについて、どんなことが言えたか覚えていますか？

原点を通ります。 y軸について対称です。

そうでしたね。今日は、山城さんからこんな問題が届いています。

既習事項の振り返り

出合わせる

問題

$y = ax^2$ のグラフに興味をもったので、家庭学習でいろんなグラフを描いてみました。そこで、問題です。ア～エの中に $y = 2x^2$ のグラフがありますが、どれだと思いますか？

皆さん、どれだと思いますか？
ア～エのどのグラフになるか10秒で考えてみましょう。

間違っても恥ずかしくないから、まずは、予想してみましょう。

ア イ よくわからない

ア、イだと予想した人は、何か理由がありますか？

比例定数aに注目してみました。

なるほど。では、今日は「比例定数aが変わると、どのようにグラフが変わるのか」を「めあて」にしていきたいと思います。

すぐに判断できない課題

ここまで5分

<秋田県の授業例>

あたたかい学習集団
お互いを
支え合える集団

めあてを共有する

「やましろ授業スタンダード」は、「主体的・対話的で深い学び」を構築するためのエッセンスをまとめたものです。子どもの実態や教科・学習課題の特性によって、順序を入れ替えたり、ある部分を**焦点化・重点化**することも必要です。また、**単元を構想**する際にも、活用できます。

授業改善 次の一手！ **主体的・対話的で深い学び**の充実！

やましろ授業スタンダード

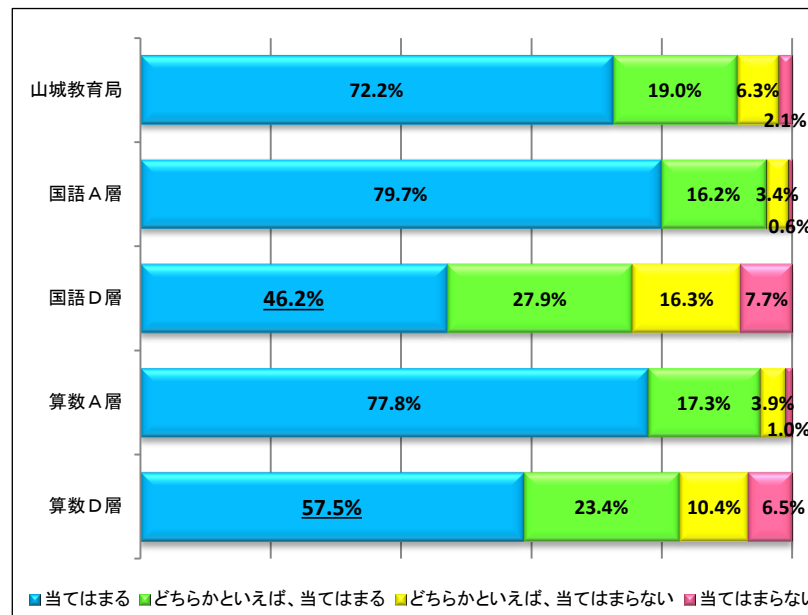
～やましろ未来っ子が輝くために～

活用シリーズ Vol.1 導入編

- 1 「出合いをしかける！」って？
- 2 「めあてをつかませる！」って？

「目標(めあて・ねらい)が示されていた」【中学校1年】

平成28年度京都府学力診断テスト質問紙調査より



平均正答数以上の児童をA層(上位)・B層(中上位)、平均正答数未満の児童をC層(中下位)・D層(下位)にそれぞれ2分割しています。

授業改善が進み、山城教育局全体では、**90%近く**の子どもが、「目標(めあて・ねらい)が示されている」と回答しています。

しかし、全ての子どもが、**目標(めあて・ねらい)**を十分把握しているかというところではない実態が見られます。

今日の授業のめあてがわかり、学習の見通しをもって主体的に学んでいくためには、**導入の工夫**が必要です。

どの子ども学びに向かわせるためには最初の**導入が鍵**となります。

目の前にいる「やましろ未来っ子」が、自ら学び自らを高め、自然・人・社会とつながり、失敗を恐れず挑戦し続けるために、「主体的・対話的で深い学び」をより一層充実させる必要があります。

授業改善へのエッセンスをまとめた「やましろ授業スタンダード」を活用シリーズとしてリーフレットにまとめました。(「活用シリーズVol.2展開編」「活用シリーズVol.3まとめ編」を発行予定)

「活用シリーズVol.1 導入編」も、「やましろ授業スタンダード」と共に手元に置き、授業づくりに活用していただけることを願っております。

どの子ども学びに向かわせる導入とは？

1 出会いをしかける！

インパクトある出会い

子どもの意欲を引き出す場面を設定しましょう。

Q 「出会いをしかける！」って？

A 「しかける」とは、教員がこの授業で学ばせたい内容を明確にして、子どもの学びへの興味・関心・意欲を引き出すための工夫です。
既習事項やこれまでの経験等と本時の内容を出合わせる中で、主体的に「問い」に気付かせ、それを「めあて」へとつなげることができるように、教員は働きかけます。

なぜ、「インパクトある出会い」？

一瞬で引きつけられる「あっ」と思うような出会いは、子どもの知的好奇心をゆさぶり、学びへの興味・関心・意欲をより高めます。
工夫次第で、子どもたちが自ら「問い」に気付くことができる印象的な場面が生まれます。



実物で興味・関心を高める



具象物でイメージさせる



ICTを活用した視覚化によりイメージをふくらませる



体験から「問い」に気付かせる

- 驚きやワクワク感がある場面
「わぁ！」「おもしろそう！」「やってみたい！」
実物を見せたり、触らせたりして、実際に体験させましょう。
- すぐに判断できない課題
「なぜだろう？」「こまったなあ！」
複数の答えや価値観をゆさぶる等、疑問や矛盾を出させましょう。
- 多様な考え方ができる問題
「えっ！」「私の考えと違う！」「あれっ？」
対比・分類・類別させることで、多様性に気付かせましょう。
- 身近な素材
「知ってる！」「見たことある！」「聞いたことある！」
身の回りにあるものや生活に関わるもの等、イメージしやすい素材を用いましょう。
- ICTの活用
映像や音声で視覚化、具体化、焦点化、共有化等を図りましょう。
- 外部人材の活用
地域人材や専門家等の魅力を活かしましょう。

2 めあてをつかませる！

めあて・見通しの共有

予想や方法を交流し、解決の見通しをもたせましょう。

Q 「めあてをつかませる！」って？

A 「つかませる」とは、教員が子どもに本時の学びを意識させ、出会いでしかけた興味・関心・意欲をゴールに向かう見通しにつなげるための工夫です。
本時の内容と関連付けて、「出会い」で子どもが見つけた「問い」を解決したくなるような、解決せずにはいられないような「めあて」を子どもの実態に合った言葉で表します。

なぜ、「めあて・見通しの共有」？

共有することは、学習集団の質を左右し、主体的・対話的で深い学びをより一層充実させるために必要です。
子どもたちが、お互いの学びへの興味・関心を高め、共通のゴールや個々の学び方、解決への見通し等を共にイメージするような場面が、その後の展開に良い影響を及ぼします。

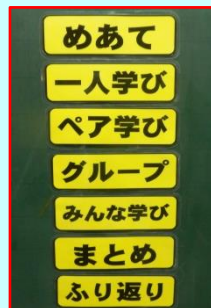
- 子どもの疑問を大切にす視点
子どもの疑問（つぶやき）を受けて、「調べたいことは？」「疑問を整理すると？」「何を考える必要がある？」等の発問を投げかけながら、焦点化を図りましょう。
- 具体的なめあての設定
「何をするのか」「何ができるようになるのか」等、子どもがゴールまでを見通すことができ、「まとめ」や「振り返り」の際に、明確に評価できる「めあて」にしましょう。
- 意欲の向上につながる見通し「この方法が使えそうかな」等
学び方がイメージできれば、安心につながり、学習意欲が向上します。既習事項やこれまでの経験を引き出しながら、「問い」を解決していく道筋を想起させ、学びの見通しをもたせましょう。



「めあて」の明確化(板書カードの活用)



「めあて」をつかもうとする熱いまなざし



授業の流れを示し見通しをもたせる

導入が、この授業で「身に付けさせたい力」とつながっていないと、導入だけが盛り上がり、後の学びに続かなくなります。
本時で「何を」「どのように」学ぶのかを明確にして、その学びへの興味・関心・意欲を引き出し、一時間の見通しをもたせることが、導入の重要なポイントです。
ただ、意欲を引き出そうとするあまり、導入に時間を費やす傾向にありませんか？
「まとめ」「振り返り」といった授業のゴールまでを見据えて、精選・選択したコンパクトな導入を心がけましょう。(前時の振り返りを入れても、目安は5~7分です。)